



夢に向かってまっすぐに

平成29年12月7日 (No. 5)



ありがとう、という言葉は、 ポケットにしまっただけではいけません。(格言)



▲学芸会6年生「夢に向かって」より

師走に入り、暖房が必要な時期になりました。朝晩の冷え込みも本格的になってきています。保護者の皆様も、体調などいかがでしょうか。

さて、先月の学芸会には、多くの皆様にご来校いただき、子供たちの頑張りに惜しみない拍手や温かい励ましの言葉をいただきました。本当にありがとうございました。会場が手狭で全ての学年をご覧いただけなかったため、残念に思っておられる方もおいでかと思えます。その上で、入れ替え制にご協力

いただきました保護者の皆様にも、心から御礼申し上げます。皆様からの温かい拍手や励ましの言葉によって、自信をもった子供たちもたくさんいたことと思います。自信は自己肯定感や自尊心につながり、いつでもどこでも堂々とした態度がとれるようになっていくと思えます。本当にありがとうございました。

学年行事の中でも、ご挨拶の機会をいただくことが多く、子供たちの育ちについて、触れさせていただいております。中でも、4月から成長していることとしては、「私(話し手)が子供たちの前に立つと、すうっと視線が集まり、今まで友達とおしゃべりをしてきた子供たちも、すぐに静かにするようになった」ということを話しています(裏を返せば4月はそうではなかった・・・ということですが(笑))。聞くという姿勢がさらに育ってきています。集会の時には、まず司会が、お手本として最高学年の6年生から起立させ、静かに起立したことを褒め、5年生に指示し5年生ができたことを褒め、4年生を褒め・・・全員が起立して、校長とあいさつを交わします。校長の話の中では、「何も言わなくても話し手を見ていた人、120点!」「お辞儀ができた人はきちんと見ていた人」「静かに聞いてくれてありがとう」などの言葉をかけ続けてきました。「そんな、子供が大人の話聞くのは当たり前ではないか」という声も聞こえてきそうですが、「静かにしてください!」と何度も声がけをするより、かなり有効なことは実際のところ確かです。演劇では、「役者は観客に育てられる」という言葉もあるとか・・・話も聞き手の反応によって、盛り上がりたり、逆にしぼんでいたり様々です。

表題の言葉は、ある国の格言ですが、他にも19世紀の思想家ラルフ・W・トラインは「感謝の言葉には超能力がある」という言葉を残しています。「ありがとう」の言葉に多く触れることで、心にプラスのエネルギーを増やすことができるとい

うことです。私たち教師もできないことに目が行きがちですが、感謝できる対象を探して見れば、身の回りにたくさんあることに気がきます。「今日はお日様が出ていてばかばかだ。お日様ありがとう」「雨が降って、空気がきれいだ。雨さん、ありがとう」「バスが時間通りにきた。運転手さん、ありがとう」・・・少し意識を変えてみれば、「ありがとう」を言うチャンスは、以外と多くあるのではないのでしょうか。

先日、「学校評価保護者アンケート」をご家庭にお願いいたしました。すでにご回答いただいた保護者の皆様もおられます。ご協力ありがとうございます。アンケートの中にも「ありがとう(感謝の言葉)」「よかったね(励ましの言葉)」について、項目を設けさせていただきました。まだまだ、学校でも努力していくべき事項はあることと思いますが、保護者の皆様のご協力をいただきながら、学校経営にあたって参りたいと思います。子供を真ん中に、**学校=子供=保護者・地域**と三者協働で進んで参ります。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

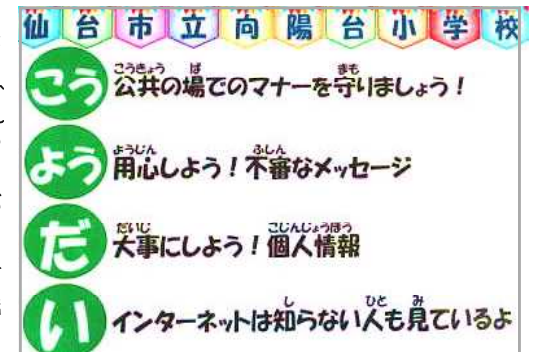
「保護者アンケート」へのご協力をお願いいたします!

今年度、三者で取り組んできた協働型学校目標について、点検と振り返りをお願いいたします。期日まではまだ時間がございますので、ご回答いただける範囲でも構いません。どうぞよろしくお願いいたします。

先日も、校長室にいらしたお客様から「あいさつをしっかりしてくれるが多いですね。」といううれしい言葉をいただきました。「あったか言葉」を増やすことは、なかなかハードルは高いようですが、学校でも子供たちを元気にする言葉がけを行って参ります。ご家庭での取組も引き続きよろしくお願いいたします。

「スマホの使い方(2017仙台版)」パンフレットから

スマートフォンの所持率が高い傾向にあることは、仙台市生活・学習状況調査の結果でもお知らせいたしました。上記のパンフレット中に興味深いデータがありましたので紹介いたします。平成29年度の調査結果では、小学5年・6年とも、所持率約60%です。そのうち、家の人と約束について話し合っているのは、小学5年・6年ともに47%ほど、約束を守っている割合と話し合っている割合はほぼ同程度となっていました。このことから、子供たちも親御さんとの約束を守ろうとしており、話し合うことの重要性が見えてきます。(差し引き13%は気になります。)冬休みを間近に控え、お子さんが情報機器を使う場面を目にする機会も増えることと思います。機会をとらえ、上手な使い方について話題にできればと思います。



▲PTA行事「スマホ安全教室」資料より